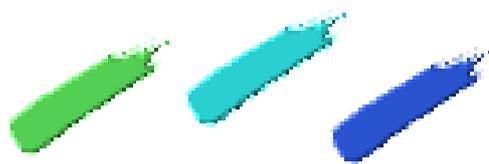


夢をはぐくみ，在り方生き方を考えさせる

キャリア教育の推進

— 幼児児童生徒一人一人の「自己実現」をめざして —



広島県教育委員会

キャリア教育とは

一般に、キャリア教育は、「児童生徒一人一人に、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と定義されています。

本県では、キャリア教育を、「幼児児童生徒一人一人がその発達課題の達成を通して、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けることをねらいとして行われる教育活動の総体」ととらえ、学校・家庭・地域社会の連携のもと、幼児児童生徒の「知・徳・体」の調和のとれた発達を促す取組み、自己実現を支援する取組みなどを、幅広く展開します。

キャリア教育のねらい

キャリア教育を進めるに当たっては、次のようなねらいをもつことが大切です。

- 幼児児童生徒一人一人のキャリア発達を支援する。
- 「働くこと」への関心・意欲を高め、学習意欲の向上を図る。
- 職業人・社会人として必要な資質や能力を高める。
- 働くことの意義を理解させ、自立意識をはぐくみ、豊かな人間性を育成する。

キャリア教育の進め方

キャリア教育を進めるに当たっては、次の点に留意することが大切です。

- **組織的・計画的に**
教育課程に位置付け、関連する諸活動を体系化し、学校の教育活動全体を通して進める。
- **系統的・発展的に**
幼児児童生徒の発達段階を踏まえ、キャリア発達にかかわる能力・態度の到達目標を明確にし、取組みの適時性や系統性・発展性に配慮して進める。
- **個に応じて**
幼児児童生徒一人一人のキャリア発達の状況を的確に把握し、個人差に留意しながら進める。
- **連携・協力して**
家庭、地域社会、企業、関係機関等の理解を得、その資源を有効に活用して進める。
- **実践的・体験的な学習活動を通して**
働くこととの接点を広げる実践的・体験的な学習活動を多面的に展開し、経済社会、職業や仕事についての具体的で現実的な理解を深めながら進める。

創意工夫を生かした取組みが期待されています

— キャリア教育の視点を踏まえた系統的な実践例 —

子どもによる保護者の勤務先訪問（子ども参観日）
児童会を中心にした「朝のあいさつ運動」
学級の仲間同士の「よさ」を見つけ合うゲーム
将来の夢を音楽や絵画で表現
生活科で...（イモの栽培・収穫などの自然とかかわる活動）



社会体験・自然体験

体験を通して、働くことと社会がどのようにつながっているのかを理解する。また、身近に働く人々に対する興味・関心をもつ。

【勤労観、職業観の基盤形成】

小学校で

P T A 研修会「子どもの“夢”を理解する」を開催
幼児や高齢者との触れ合い・交流を深める生徒会活動
職場体験，保護者と共に行うボランティア活動
伝記を中心とした読書活動の推進



ボランティア体験（保護者との協働）

体験を通して、勤労の大切さや働く人々の思いを理解する。また、働くことの意義を保護者と共に考え、勤労観、職業観を身に付ける。

【職業に対する現実的探索】

中学校で

学校外における就業体験の成果を単位認定
地域の福祉・環境にかかわるボランティア活動
修学旅行を利用した進路希望グループ別の企業・大学訪問
「ひろしまマイスター」などによる講演会の開催



就業体験（インターンシップ）

職業における実際のスキルを学ぶとともに、職業人から、働くことの喜び、厳しさ、仕事に対する誇りを学ぶ。

【社会的移行への準備】

高等学校で

幼児児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育をすすめてみましょう！



校種等		小学校, 小学部			中学校, 中学部	高等学校, 高等部	
		保育所・幼稚園 幼稚部	低学年	中学年			高学年
キャリア発達段階		人間関係基盤形成の時期	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期			現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
本県におけるキャリア教育を貫く教育活動		ことばの教育・心の教育					
領域	キャリア発達にかかわる諸能力	各段階におけるキャリア発達の系統イメージ・キャリア発達を促す教科・領域の活動例					
人間関係形成能力	自己理解能力 自己と他者の互いを認め合うことを大切に行動することができる	友達といっしょに活動する楽しさを味わう 友達とぶつかり合いながら、集団での遊びをする	友達と仲良く遊び、助け合う 国語科「自画像・自じよ伝(構成を考えて自分の考え方の変化を書く)」、 道徳「協力」「感謝」「個性」、特別活動「学級活動(自分たちのよさを見つけよう)」	友達のよいところを認め、励まし合う	話し合いなどに積極的に参加する	自他のよさや個性を理解し尊重する 国語科、特別活動「自分史を書く」、 道徳「個性の尊重」	自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする 諸検査(「職業レディネステスト」等) 就業体験(インターンシップ)
	コミュニケーション能力 適切なコミュニケーションを図り、豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていくことができる	あいさつや返事をする 友達や先生などに自分からあいさつをする	感謝・あいさつ・返事をする 自分の考えをみんなの前で話す 生活科「大きくなった自分」、道徳「役割の自覚」「礼儀」、 特別活動「児童会活動」「学級活動(望ましい人間関係の育成)」	協力・信頼する 自分の意見や気持ちを分かりやすく伝える	相手の立場に立って考え行動する	場面や目的に応じたコミュニケーションを図る 他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする 異年齢集団による活動 スキルトレーニング、プレゼンテーション 構成的グループ・エンカウンター	多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図る プレゼンテーション 構成的グループ・エンカウンター グループディスカッション「働くこと私の生き甲斐」
情報活用能力	情報収集・探索能力 進路や職業等に関する情報を収集・探索するとともに、自己の進路や生き方を考えることができる	地域に親しみをもつ 地域の身近な人や社会、自然に興味をもってかわる	身近で働く人々に興味・関心をもつ 生活科「身近な人々との接し方」「地域の人の仕事調べ」、 社会科「地域の人々の生産や販売」、 総合的な学習の時間「地域の文化を知る」	様々な職業があることが分かる	身近な産業、職業の様子が分かる	生き方や進路に関する情報を収集・整理し、活用する 社会科「地域調査」、 特別活動「体験入学」「卒業生の話の聞く会」、 「学校図書館の利用」	卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的に情報を収集し検討する キャリアセミナー(キャリア・アドバイザーの活用) 就業体験(インターンシップ) 大学・短大等の見学 企業訪問、大学の研究室等の訪問
	職業理解能力 学校で学ぶことと社会生活、職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解することができる	手伝いをする 人の役に立つ喜びを味わう	働くことに関心をもつ 係や当番の活動に取り組み、その大切さが分かる 社会科「産業と人々の生活」、 特別活動「学級活動(係を決めよう)」、 総合的な学習の時間「地域の人の生き方に学ぶ」	働くことの意義を理解する 係や当番の仕事に積極的に取り組む	職場見学等を通して、働くことの大切さが分かる	体験を通して、勤労の大切さや働く人々の思いを理解する 特別活動「職場訪問」「職場体験」「社会人の話を聞く会」「ボランティア体験」	勤労の尊さを体験を通して理解し、自己の生き方を考える 多様な勤労観、職業観を理解し、勤労・職業に対する理解・認識を深める 倫理「社会参加と奉仕」、 就業体験(インターンシップ) ボランティア活動
将来設計能力	役割把握・認識能力 生活・仕事上の多様な役割や意義及び関連等を理解し、自己の果たすべき役割等について認識を深めることができる	自分のことは自分です ごっこ遊びで、自分の役割を意識して遊ぶ	家の手伝いなど役割の必要性が分かる 家庭科「家族の一員として家庭の仕事に協力できるようにする」、 道徳「家族愛」「公德心・社会規範」「勤労・奉仕」、 特別活動「学級活動(仕事の分担)」	互いの役割や役割分担の必要性が分かる	仕事における役割の関連性や変化に気付く	様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える 社会科「私たちの生活と経済」、 技術・家庭科(家庭分野)「自分の成長と家族や家庭生活とのかわり」、 道徳「勤労・奉仕」、 特別活動「学級活動(係活動)」「生徒会活動」	個人的・社会的役割や責任を理解し、役割を果たす 現代社会「現代の経済社会と経済活動の在り方」、 政治・経済「現代の経済」、 ボランティア活動 運動会、文化祭における協同作業 生徒会における委員会活動
	計画実行能力 将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実行することができる	物事をやりとげようとする 友達と一緒に目標をもって遊ぶ	自己の役割を理解する 決められた時間や決まりを守るようとする 国語科「十さいを祝おう」「自分の未来に夢をもつ」、 生活科「成長への喜び」、 道徳「節度・節制」「夢や希望」、 特別活動「学級活動(希望や目標をもって生きる態度の形成)」「中学校生活への期待」	夢を描く・集団と自己の役割を理解する 将来の夢や希望をもつ	将来のことを考える大切さが分かる	将来設計と社会貢献の調和を図る 将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業への関心・意欲を高める 道徳「理想の実現」「個性の伸長」、 特別活動「教育相談の充実」	職業についての総合的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する 現代社会「自己実現と職業生活、社会生活、 家庭総合「人の一生と家族・家庭」、 キャリア設計(「10年後の私と職業」) ライフプランの作成 キャリアガイダンス
意思決定能力	選択能力 主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行うことができる	自分で決めようとする 自分のしたい遊びを自分で選んで遊ぶ	好きなもの・大切なものをもつ 特別活動「学級活動(学級内の組織づくり)」、 「児童会活動(委員会活動)」「クラブ活動」	やりたいことに進んで取り組む	自分にできそうな係活動に取り組む	自己の個性や興味・関心等に基づいて、進路を選択しようとする 選択教科の選択 特別活動「ガイダンス機能の充実」、 上級学校への訪問	自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する 就業体験(インターンシップ) 大学・短大等の見学 ボランティア活動 カリキュラム選択
	課題設定・課題解決能力 自ら課題を設定して、その解決に取り組むことができる	自分で決めようとする どうすれば友達と楽しく遊ぶことができるか考える	自分で考え自分で行動する 責任をもって行う 自分自身は自分でしようとする 道徳「自主自立」、 各教科、特別活動、総合的な学習の時間における「問題解決的な学習」	将来展望をもつ 最後までやり通す	将来の夢や希望をもち、実現を目指して努力しようとする	課題解決に取り組む 課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとする 各教科、特別活動、総合的な学習の時間における「問題解決的な学習」	進路実現に向けた準備に取り組む 進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む 課題研究 デイベート 卒業研究・卒業論文

盲・ろう・養護学校の各学部では、上記の活動例を踏まえ幼児児童生徒一人一人の「個別の指導計画」を作成し指導しますが、高等部ではさらに自立と社会参加を目指した「個別の移行支援計画」を作成し指導します。

キャリア教育 Q&A

キャリア教育の積極的な推進が求められるようになったのはなぜですか？

今日の厳しい経済情勢や産業・経済及び雇用の構造的変化に伴って、学校生活から職業生活への円滑な移行が難しい状況が生じています。例えば、若年無業者及びフリーターの増加や、就職後早期に離職する若者の比率も高くなっていることなどがこれに当たります。これらのことが近い将来我が国の経済・社会の基盤を危うくするのではないかと心配する声もあります。

一方、若年無業者等の増加の背景には、働くことへの関心・意欲の低さ、目的意識・責任感・基本的マナー等の欠如、未熟な対人関係能力などが指摘されています。働くことなどを含め様々な体験の機会や異年齢者との交流の場が乏しくなっていることがその要因として考えられます。

これらの課題を克服し、子どもたち自身が、自己のよさや可能性に気付き、夢や希望をもち、その実現に向けて努力していくことができるよう、キャリア教育の充実と積極的な推進が求められています。

キャリア教育とこれまでの進路指導、職業教育とはどう違うのですか？

進路指導、職業教育はキャリア教育の中核をなすものです。しかし、従来は、いわゆる「出口指導」にとどまっていたり、専門的な知識・技能の習得のみを重視する傾向がありました。

今後は、集団生活に必要な規範意識やマナー、人間関係を築くコミュニケーション能力など、キャリア発達にかかわる幅広い能力の形成を支援する取組を重視するとともに、児童生徒が、働くことの意義や専門的な知識・技能を習得することの意義を理解し、その上で科目やコース、将来の職業を自分の意志と責任で選択し、専門的な知識・技能の習得に意欲的に取り組むことができるような指導を充実させることが大切です。

本県では「ことばの教育」「心の教育」を重点的に進めています。「ことばの教育」では、学習や生活の基盤として重要であり、情報を確実に理解し自分の考えを相手に正確に伝えることなど、社会人として必要とされる力でもある「ことばの力」を身に付けさせます。

「心の教育」では、大人が生き方を語るなどを通して、すべての子どもたちに、夢や希望を育て、社会の一員として自覚をもち、たくましく成長していく力を身に付けさせます。

これらの教育に取り組むことがキャリア教育の推進につながります。

「ことばの教育」「心の教育」とキャリア教育とはどのような関係ですか？

例えば、次のような観点で改めて見直してみましょう。

- ・ 職場見学や職場体験を実施したのち、事後指導として、児童生徒一人一人に体験を振り返らせ、働くことについて自分自身の将来の夢や生き方と関連付けて考えさせる取組を十分行ってきましたか。
- ・ 生徒が自分の将来を見通す中で、自分に合った類型（コース）を適切に選択したり、自分に必要な科目を間違いなく選択することができるよう、ガイダンスを十分行ってきましたか。
- ・ 生徒がこれまでどんなキャリア教育を受けてきているかを把握していますか。
- ・ キャリア教育を推進していくため、保護者と共通認識に立った上で連携を図っていますか。
- ・ 関係機関と連携をとりながら、就業体験先を開拓していますか。

「本校ではもう十分取り組んできた。これ以上改善の余地はない」との意見があるのですが...